

顎口腔機能領域を極める 顎機能頭蓋骨模型。

顎運動は、様々な補綴物を成功に導く上で理解しなくてはならない重要な要素です。しかしながらその運動は、下顎頭や歯列の関係で前後・左右・上下に複雑に絡み合う動きのため、イラストのようなものでは2次元的な動きを一つ一つ断片的に表しているため、なかなか理解しづらいものでした。

顎口腔機能学モデルでは、頭蓋骨モデルを基本に、それらの動きをより分かりやすく理解できるよう、3次元的な動きで顎運動を再現できるようになっています。



顎機能頭蓋骨模型 [P10-SB.20]

前方位、側方位、最大開口位など様々な動く下顎運動を3次元的な動きで再現できる頭蓋骨モデル。

より滑らかに3次元的な下顎運動ができるよう、側頭筋、咬筋を想定した4本のシリンダーを頭蓋骨モデルに付与しています。また、再現できる咬合様式は犬歯誘導とし、軽く力を加えることで複雑に動く下顎運動を観察することができます。

切歯点や下顎頭の動きを3次元的に観察することで、今までイラスト的に理解していた下顎運動をより分かりやすく理解することができます。

■中心位



■咬頭嵌合位



■側方位



■前方位



■最大開口位

